

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	廣田 美穂
主な担当科目	歌うための基礎トレーニング,卒業研究のためのレッスン,副科グループレッスン,副科声楽①,声楽
2025年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	新カリキュラムが始まるにあたり、新たな科目を運用していく必要もあり、十分な準備が必要であると感じていたため、これまで使用してきた教材の他にも新しい教材を探したり、様々な資料集めを行う必用があった。また副科声楽①をクラス授業にするために、少人数で行ってきたグループレッスンからクラス授業への以降のために、どのように資料の共有をしたらよいのか研究も必要だった。
2025年の教育に関 する自己評価	新科目である2科目については資料の共有を全てデジタル化させ、全学生に貸与されているiPadを出来るだけ使用した。また新しい科目だからこそ出来るだけクラスメイトと協働したり、アンサンブルをしたりと、興味をもって課題に取り組めるように工夫ができたと感じる。とはいえ譜読みの速さ等、学生間に差があるためにその差を埋めながら授業する難しさも感じた。
2025年のFD活動 に関する自己評価	時間の許す限り積極的に出席してきた。様々なテーマでのFDであり、各コースならではの視点や問題点を共有することが出来た。また全体FDではハラスメントについてなど外部講師による研修により意識のブラッシュアップが出来たと考える。漫然とその場をやり過ごすことなく、常に状況の変化に対応すべく、今後も研修に参加していきたいと考える。
授業改善のために 取り入れた研修内容	今年度は新カリキュラムが始まったこともあり、他の先生方の教材研究のお話などを元に、新しい科目についてこれまで使用してこなかった教材をとりいれたりし、工夫して授業を行ってきた。またEstilという声を可視化するソフトは学生とのレッスンの際に自分たちの声の様子をグラフの様な形で見ることが出来て興味深かったが、表現には有効ではないため、結局使用し続けなかったが、様々なテクノロジーに触れることも大切だと改めて感じた。

2025 年度(春学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2218 教員名:廣田 美穂

1)アンケート結果に対する所見

「歌うための基礎トレーニング」は今年度開講させた科目であり、長年の声楽コースの課題であったソルフェージュ力強化の為に開講させた。1 年生という真っさらな学生を対象に、新しい環境である音楽大学での学びの最初の一步が肝心と考え、予習も復習も必要な課題を授業で出すようにしたことが、ソルフェージュ力向上と満足度に繋がったと感じる。

また「修士オペラ特別演習①」については、学生たちが強い目的をもって入学してきて、先生方と学生と一緒に課題に取り組んできたことが満足度に繋がったと感じる。

2)要望への対応・改善方策

それぞれの科目に対して特に要望は出ていないが、今後も学生とコミュニケーションをとり、学生に合わせた対応が出来るようにしていきたい。

3)今後の課題

「歌うための基礎トレーニング」では楽譜を読む力が付くようになるまで一緒に頑張る、という事を最初の授業で学生たちと共有していることもあり、課題等も納得して取り組んだと思う。更に実践的に、卒業して現場に出たときに戸惑うことなくやっていけるように課題を提示して、学生自身も自信をもって歌っていけるようにさせてあげたい。

また「修士オペラ特別演習」では留学生と内部進学者と密に話をすることで、障壁を出来るだけ取り除き、学修出来る環境を整えたいと考える。恐らく秋学期は要望や課題が出てくるであろうことを想定して、新年度の授業準備、そして 2 年生のクラス担当者に引継ぎをしたいと思う。

以 上

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2218 教員名:廣田 美穂

1)アンケート結果に対する所見

「歌うための基礎トレーニング」については、概ねこの科目の内容を理解し、目的を持ってしっかり学んだ様子が伺える。各自の自習時間に関してはまちまちではあるが、授業の様子を見ても各自しっかり予習も復習を行っていたように感じた。

また「修士オペラ特別演習②」に関しては留学生の多い学年のため、日本人学生に負担がかかり過ぎないように配慮はしていたものの、実際に成果発表の準備を行う際にこれまで以上に役割分担やスケジュールリングに介入して対応していく必要があったようだ。ただし、修士のオペラに関しては字幕の作成やタイムスケジュールの作成なども必要なスキルと考えているため、理解と学びとなるように方向づけする必要があるようだ。

2)要望への対応・改善方策

「修士オペラ特別演習②」に関しては、学生と教員間で密にコミュニケーションを取り、余裕を持ったスケジュールリングをし、歌うこと以外の作業も学びに繋がるように促していく。

3)今後の課題

既に昨年度の春学期より個々の状況によって、授業時間内に個別に指導を行うなどしてきたが、その方法などを改めて検討し、成果発表の在り方も含め、一つ一つの作業や稽古が学びとなるようにすることが課題である。

「歌うための基礎トレーニング」においてはクラス授業とはいえ個々の課題を踏まえ、適切な指導を検討し、単位修得後の学びに役立つ基礎力を付けられるよう検討する。

以 上